

今回のテーマは・・・『太陽光発電本格的にスタート』です。

皆様あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

御正月はいかがでしたでしょうか？今年は静かに家で過ごした方も多いようです。

お餅や美味しいおせち料理でちょっと体重が……という方も多いと思います。私の知人のダイエットと省エネを兼ねたお勧めは、帰宅して家が寒い時に家の中で「走る」と良いとのこと。部屋が暖まるまでの時間走ることで、体もあたたまり暖房温度も低めに設定できるとの事。まさに脂肪燃焼による自家発電ですね。

■『太陽光発電の規格統一へ』

政府と国内の太陽光電池メーカーは共同で2009年度から住宅用太陽光発電システムの規格統一に乗りだします。太陽光パネルのサイズや付属機器の規格をそろえる事で、住宅に設置しやすくするほか、関連メーカーの競争を促してコスト低減につなげ、普及を後押しするため。統一規格は国際標準として世界に提案する計画で、今後需要増が予測される太陽電池市場で主導権をにぎるねらいもあるということです。

地デジ対応テレビの普及も全世帯の47%と政府目標をすたまわっていて、アナログ放送延期の話もでています。太陽光発電もどのくらいのスピードで普及するかはコストをどのくらい安くできるかにもよると思います。早くお求めやすい価格になると良いですね。

■『太陽光発電の大量導入でインフラ整備で5兆円』

経済産業省は地球温暖化対策として家庭などが太陽光発電を大量導入する計画に備え、送電線の強化などインフラ整備にかかる費用の試算をまとめました。それによると2030年の導入水準を現在の40倍にする政府目標通りに太陽光発電の普及が進むと、発電パネル本体以外のインフラに必要な費用は最も安い場合でも5兆円近くかかるという。

定額給付金の倍以上の金額ですね。太陽光発電は発電時に温暖化ガスを排出しないが、大量に導入されると家庭で電力をつかわない時に余剰電力が発生する、余った電力をためておく蓄電池を設置したり、送電線に入って電圧が上昇するのを抑制するために変圧器の設置などが必要になるためとのことです。

■『フラット50誕生』

住宅金融支援機構は2009年4月をめぐり、金利を最長50年間固定する新型の住宅ローン「フラット50」を発売する方針を固めた。「200年住宅」など長期間住むことができる性能が高い住宅が対象。満80歳までに返済を終えるか、子供にローンを引き継いで完済することが貸し出しの条件で、銀行の窓口などで申し込みを受け付ける予定

現在、大手銀行などの多くは最長返済期間を35年までにしているのがほとんどです。

国土交通省の試算によると、200年住宅は通常の住宅よりも2割程度高くなるが、50年間のローンを発売すれば普及を後押しできるとみています。

それにしても住宅ローン50年は長いですね。